

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ミライ・シア

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園新川崎	種別：認可保育所
代表者氏名：矢部 樹子	定員（利用人数）： 60名
所在地：神奈川県川崎市幸区小倉1-4-24	
TEL：044-599-6790	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2009年4月	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 5名
専門職員	（専門職の名称）看護師 1名
	栄養士 2名
施設・設備 の概要	（居室数）保育室：3 （設備等）給食室完備
	事務室：1 園庭あり 休憩室兼更衣室：1

③ 理念・基本方針

- 1) 子ども理念「のびやかに育て だいちの芽」
- 2) 保育指針「みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛」 信頼・安心・共感
- 3) めざす保育園像 「ひだまりのような保育園」
- 4) めざす保育園像 「地域と共に育つ保育園」
- 5) めざす保育園像 「子どもと共に輝いていける保育園像」

④施設・事業所の特徴的な取組

ワンフロアを活かしての異年齢活動や散歩を通しての異年齢交流を行っている。また、職員も園児全員を把握し、クラス関係なく声を掛けるようにしており、園全体で一つの大きな家のように感じられるようにしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 5月 16日（契約日） ～ 2022年 11月 1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2019年度）

⑥総評

◇特長

1. 園長を中心に職員が意欲的に働けるような環境づくりを進めています
児童票や全体的な計画、保育指導計画、行事計画などは、主任やリーダー職員を中心に分担し、園長は全体を統括することで、職員が主体的に保育の質の向上に取り組める体制にしています。行事企画については、職員が主体的に関わるように担当者の意見を尊重し、意欲を持てるように導いています。

園内の会議は、それぞれの会議の役割を見直し、その目的を明確にしました。職員が発言しやすい雰囲気醸成し、意見交換ができる機会を増やしています。また、事前に資料を渡して考えてきてもらうなど工夫をして、会議の活性化に取り組んでいます。

園長は事務作業の担当も多いですが、積極的に現場の状況把握に取り組んでいます。

保育に自ら参加する機会を設けて、職員にとって身近な存在になれるよう積極的にコミュニケーションを取っています。

このように園長は、職員が働きやすく、意欲的に行動できる環境をつくることを重要視しています。これらの取り組みは、子ども達に安定した保育環境を提供と保育の質の向上につながると考えられるため、今後も継続的に進めていくことが期待されます。

2. 自然に親しみ体感できる活動

幸区の自然豊かな環境を活かして、季節の移ろいを感じられるように戸外での散歩活動を多く取り入れています。基本的には6種類の散歩コースを設定していますが、子どもの年齢、その日の活動や目的により選択しています。近隣には動物公園やわんぱく広場等多くの公園があります。動物とのふれあいや遊具での遊び、山のぼり等を通して自然を身近に感じることができています。秋には落葉で創作活動を行ったり、拾ったどんぐりでマラカスを作り音楽のリズムに合わせて楽しんでいます。また、食育の中で野菜の栽培を行い、年齢によってそれぞれの関わり方を体感することで、野菜への愛着を覚え、苦手意識の克服へと導いています。

◇今後期待される点

1. 園の課題について、中・長期計画及び事業計画に十分表現できていない部分があるため、今後この部分を計画に盛り込んでいくことが期待されます

園では職員が意欲的に働けるような環境づくりを目指して取り組んでいることが、今回の調査ではわかりました。ただ、このことが中・長期計画や事業計画に十分に表現されていません。実際に取り組みは行われており、成果も多く出ている部分であると考えられるため、より確実な実行につなげるためにも計画化して進めていくことが期待されます。

また、計画化した部分を職員や保護者にも伝え、理解を得て進めていくことでさらなる成果につながることが期待できます。

今回の調査では、事業計画の内容について職員及び保護者に対して理解を促しているか、という項目については不十分な部分も見られたため、これに関しても改善が望まれます。

2. 職員間での保育観や方向性を合わせた体制づくり

園ではミーティングや会議を通じて職員一人ひとりの保育観や方向性についてすり合わせを行っています。園としてどのような保育をしていくか、どのような価値観や考え方で子どもに接していくか等、職員間でバラつきが生じやすい部分については、日頃から話し合うようにしています。しかし、時に職員の気持ちに余裕がない場合にはせかず言葉や制止言葉を使用する等、職員間で保育力の差が課題となっています。今後は育成に関しての職員間での取り組みや研修への参加等を行っていく必要があると思われま

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

一つ一つの丁寧な聞き取りにて、園での取り組みや思いを伝えることが出来、評価へと反映していただきました。評価を受けるにあたって職員とともに新たな気付きや振り返りを行うことが出来、思いを一つにすることが出来ました。今まで大切にしてきたことを更に飛躍させると共に、課題と向き合い改善点を見出していきたいと思えます。また、いただいた助言をもとに今後の園運営や保育の質向上へと繋げていきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり